

問題22 2重管内の温度分布

内管, 外管は同心軸に一致しており, 内側の高温流体と外側の冷却雰囲気との温度はそれぞれ $T_H$ ,  $T_L$ で一定とする。解くべき対象領域は, 2重管の内部であり, 固体内の伝導による熱移動の問題となっている。現象としては, 中心軸から半径方向に(放射状に)熱は移動しており, 温度分布は軸対象となるはずである(そうでなければ, 周方向( $\theta$ 方向)に温度勾配が存在する, すなわち軸対象でなくなってしまう)。内管, 外管ともに円筒座標の熱移動の式を基礎方程式として, 簡単化の過程も同じである。

基礎方程式 
$$\frac{\partial T}{\partial t} + v_r \frac{\partial T}{\partial r} + \frac{v_\theta}{r} \frac{\partial T}{\partial \theta} + v_z \frac{\partial T}{\partial z} = \alpha \left\{ \frac{1}{r} \frac{\partial}{\partial r} \left( r \frac{\partial T}{\partial r} \right) + \frac{1}{r^2} \frac{\partial^2 T}{\partial \theta^2} + \frac{\partial^2 T}{\partial z^2} \right\} + \frac{Q}{\rho C_p}$$

簡単化 定常状態  $\rightarrow \frac{\partial}{\partial t} = 0$  軸対象  $\rightarrow \frac{\partial}{\partial \theta} = 0$  無限長の円管ということ  $\rightarrow \frac{\partial}{\partial z} = 0$   
 でz方向には変化がない

静止固体内で流速なし  $\rightarrow v_r = v_\theta = v_z = 0$  問題に何の記載もないので発熱もない  $\rightarrow Q = 0$

解くべき式 
$$\frac{1}{r} \frac{d}{dr} \left( r \frac{dT}{dr} \right) = 0$$
 境界条件 (内管)  $T = T_H$  at  $r = r_i$  最終的には $T_H$ ,  $T_L$ のみで表現するが, この段階では, とりあえず, 中間の温度を $T_M$ としておく  
 (外管)  $T = T_M$  at  $r = r_m$   
 $T = T_M$  at  $r = r_m$   
 $T = T_L$  at  $r = r_o$

積分して解く 
$$\frac{d}{dr} \left( r \frac{dT}{dr} \right) = 0 \xrightarrow{\text{積分する}} r \frac{dT}{dr} = A \rightarrow \frac{dT}{dr} = \frac{A}{r} \xrightarrow{\text{もう一度積分する}} T = A \ln r + B$$

境界条件で積分定数を決定する (内管)  $T_H = A \ln r_i + B$   $T_M = A \ln r_m + B$   $A = \frac{T_M - T_H}{\ln(r_m / r_i)}$   $B = \frac{T_H \ln r_m - T_M \ln r_i}{\ln(r_m / r_i)}$

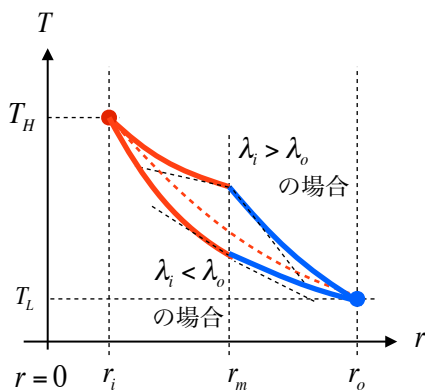
内管に対する解 
$$T = \frac{T_M - T_H}{\ln(r_m / r_i)} \ln r + \frac{T_H \ln r_m - T_M \ln r_i}{\ln(r_m / r_i)} \rightarrow T \ln \left( \frac{r_m}{r_i} \right) = T_M \ln \left( \frac{r}{r_i} \right) + T_H \ln \left( \frac{r_m}{r} \right)$$

(外管)  $T_M = A \ln r_m + B$   $T_L = A \ln r_o + B$   $A = \frac{T_L - T_M}{\ln(r_o / r_m)}$   $B = \frac{T_M \ln r_o - T_L \ln r_m}{\ln(r_o / r_m)}$  
$$T \ln \left( \frac{r_o}{r_m} \right) = T_L \ln \left( \frac{r}{r_m} \right) + T_M \ln \left( \frac{r_o}{r} \right)$$

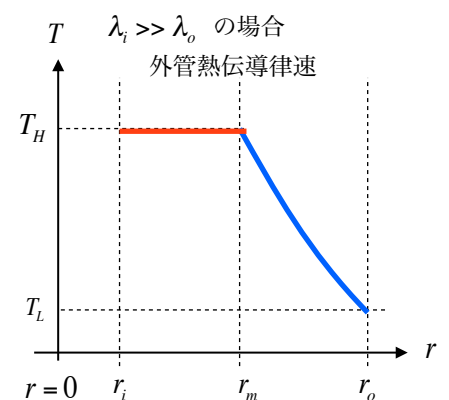
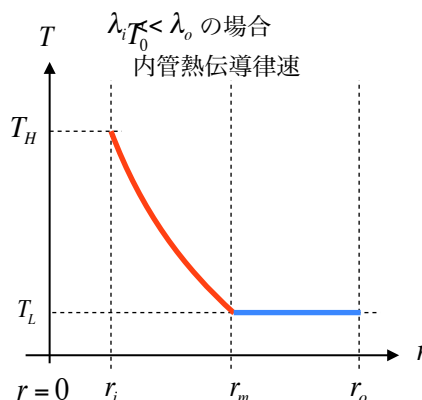
$T_M$ を用いたままではだめなので, 何らかの条件で $T_M$ を決定する必要がある。

内管と外管の境界面における熱フラックスの条件

$$\lambda_i \frac{\partial T(\text{内})}{\partial r} \Big|_{r=r_m} = \lambda_o \frac{\partial T(\text{外})}{\partial r} \Big|_{r=r_m} \rightarrow \frac{\lambda_i (T_M - T_H)}{r_m \ln(r_m / r_i)} = \frac{\lambda_o (T_L - T_M)}{r_m \ln(r_o / r_m)} \rightarrow T_M = \frac{T_H \lambda_i \ln(r_o / r_m) + T_L \lambda_o \ln(r_m / r_i)}{\lambda_i \ln(r_o / r_m) + \lambda_o \ln(r_m / r_i)}$$



熱伝導度の差が数倍程度であれば, それ以上の考察はなかなか難しいが, 両者が極端に異なっている(100倍程度以上)場合は, 下の図にあるように, 熱伝導度の小さい部分の熱伝導のみが全体を支配する。これが律速という概念であり, 遅い速度の過程に全体が律速されているという。



講義資料にあるように, 定常状態(フラックスが均一)ではrの増加(面積の増加)に伴い勾配は減少する。上図の破線は熱伝導度が均質の場合で, 内管と外管の熱伝導度大小関係で, 温度分布は図のように変化する